

- 養鶏や何かの産業をやっていくために、実顕地をやる、一体生活をする、のではなく、一体生活そういう社会を造ることがまず先で、その中へ養鶏（＝産業）を織り込んでいく。
- 今の実顕地で人が何人要りますかと質問すると、すぐ事業経営から割り出した人数が出てくる。そんなところに今何を目標としているかが表われてくる。
- 事業としての養鶏ではなく、自分たちのやっていることは一体なんだろうかと考えていくこと。「鶏飼いではない、養鶏でやっています」というところを他へ応用していく。養鶏で現わそうとしているそのもとを検べていく。
- 人に「あなたは何のためにその仕事をしているのですか」と問われて、即答できない自分の程度を自覚する。大いなる理想を抱きながら、日常いかに不明確に暮していることか。
- 「本書に書かれてある通りを実行して下さるならば、物心両面共に満足して頂き、永久に責任を持ちましょう」
そこまで言い切れるのかという人がある。本当かどうか分からないという人には、分からない。そこまで言い切っているからには、何かがあるだろうとして探っていく、なるほどなるほどとなっていくのではないか。
誰が責任を持つのかといえば、著者と読んで実行した人と両方。
- 金を儲けようという考え方からは、金のいる社会しか見えてこない。
現状をどうしようかという考え方からは、良い考え方は出てこない。
- イズム活動はイズム活動、金儲けは金儲けでどんどん金を儲けて、それをイズム活動に注ぎ込もうとしていくと、知らないうちにイズム活動がお留守になる。
- 一体生活（実顕地）繁栄の秘訣は「それは共にやってきたから」です、とスツといえるかどうか。
- したい放題のことせんと、生れてきた甲斐がない。
しかし、その前に算数ができんと。それができたら無茶苦茶なことせんわね。
本当にコーヒーを美味しく飲む原理
簡単な算数＝「共に」の精神
例えば一日3杯飲んでたコーヒーを、3人の人に飲んで貰った時のコーヒーの味。

（実顕地用養鶏法研鑽会資料より）